

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

設問数の変化, および難易度の変化はなかったが, 昨年度に比べると作業量が減り, 取り組みやすくなった。

出題の特徴や昨年との変更点

設問の多くは空所補充で, 一部に問形式を含む。受験生にとって目新しい問題を, 誘導に従って解いていかなければならない。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野 (テーマ)	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空所補充・ 問形式 (記述・描図・ 論述)	力学 (万有引力)	物理	通常の万有引力による周回運動と, 距離の k 乗に反比例する引力による周回運動を比較させる問題であった。誘導に従って確実に計算をしていくことが求められる。	標準
II	空所補充・ 問形式 (記述・選択・ 描図)	電磁気・原子 (電場と電位・ 荷電粒子の運 動・光電効果)	物理	球形コンデンサーを用いた, 電子の運動エネルギー測定に関する問題である。(4)までは標準的な内容であり, 得点を稼ぎたい。(6)では, 光電効果に関する理解度を問われている。	標準
III	空所補充・ 問形式 (記述・描図・ 論述)	波動 (偏光・光の干 渉)	物理	偏光板や媒質を用いて偏光の方向を操作する方法についての問題である。偏光についての定性的な理解だけでは解答できないので, 問題文を深く読み込んで, 定量的な計算を進めなければならない。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 基本事項を正確に把握する。
2. 題意を正しく把握するための読解力を養う。
3. 図を用いて状況設定を正しく把握する習慣を身につける。
4. 正確で迅速な計算力を養う。